

森林活用型ワーケーション検討会議

野遊びでの力で、幸福な地球に。

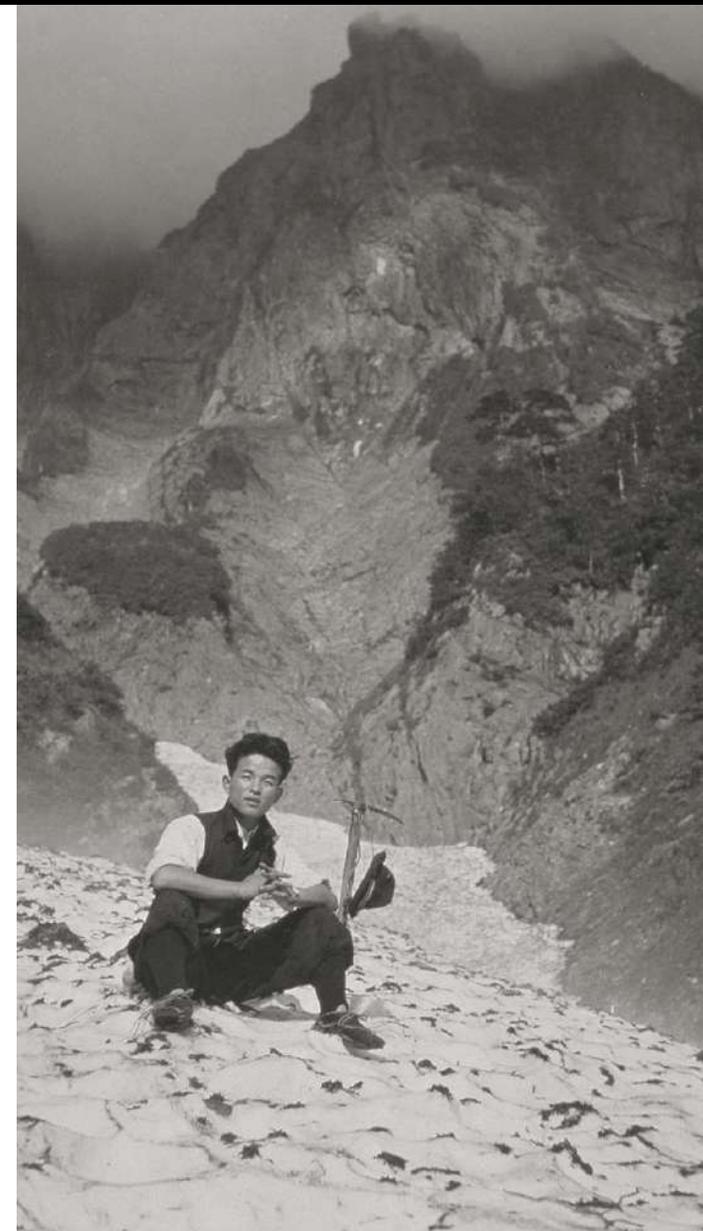
焚火などキャンプでの営みは大人も子供もすべての個人の人間性を回復させる不思議な力を持っています。

そういった原始的で根源的な人間の営みを共有する時間を、個人の集まりである家族で持つことがファミリーキャンプの意味です。キャンプにより家族の絆は深まり、そしてたまたま隣のサイトでキャンプしていたご家族同士、また共にイベントに参加したものが触れ合い、一生の友になり、それが拡大してコミュニティを形成していく。そして今、個人からコミュニティへと繋がる野遊びの価値を、日本に、世界に発信しているのが、コミュニティブランドとしてのスノーピークです。

そこには全ての人々の人生価値のさらなる高まりがあると感じます。スノーピークはその延長線上に日本の地方創生があると考えています。地域の価値が上がり活々とした地方が増えれば国が良くなる。そして活々とした国が増えれば、もちろん、地球が良くなる。

アウトドアパーソンとしてキャンパーとしての価値観で私達にしかできないことを愚直に行動し、日本、そして世界を野遊びで幸せにしたいと考えています。

会社名	株式会社スノーピーク (コード番号：7816 東証第一部)
代表者	代表取締役 山井 梨沙
本社	〒955-0147 新潟県三条市中野原456番地
創業	1958年7月 (設立：1964年1月)
事業内容	アウトドアライフスタイル用品の開発・製造・販売事業
資本金	21億5400万円
従業員数	連結：509名 (2020年12月時点) ※契約社員、パートタイマー、派遣社員を除く
グループ会社	株式会社スノーピークウェル 株式会社スノーピークビジネスソリューションズ 株式会社スノーピーク地方創生コンサルティング 株式会社スノーピーク白馬 株式会社デステーション十勝 Snow Peak Korea Inc. Snow Peak London Limited. Snow Peak USA, Inc.



キャンプフィールドの中にある本社。

当社グループの本社Headquartersは新潟県三条市の山間の小高い急流地帯にあり、そこでキャンプ場も運営。約5万坪の広大なフィールドの傍らに業務を行うオフィス、過去から現在のスノーピークを感じていただくミュージアム、自社製品を取り揃える直営店で構成される本社建屋はあります。販売の現場、キャンプを楽しむ現場に至るまで、ユーザーも含む当社グループの企業活動が一貫して行われる場であり、当社グループのビジネスモデルが凝縮された場となっています。



自然と一体感を持つ本社



フィールド側は全面ガラス張り



クリエイティブルーム



フィールド移動／各自持ち運び



アウトドア会議



焚火コミュニケーション



新しい時代のニーズに応える キャンプ場を全国へ

自然の中に出向いて時間を過ごしたいという消費者の自然志向が、新型コロナウイルスの感染拡大以降、一層加速・定着し、新しい生活様式の一つとしてアウトドアでのレジャーが広く楽しまれています。一方、キャンプ場予約が取れないなど増加するアウトドア需要に対してキャンプ場施設設備が追い付いていません。

まずは全国により多くの魅力的なフィールドを作り、自然の中で時間を過ごす豊かな価値をより多くの方に知っていただきたい。そしてスノーピークの仲間たちが知っている、地域の人・自然に触れながらフィールドで遊ぶ喜びや、仲間と味わう食事のおいしさを、多くの方に感じてもらいたい。スノーピークはそう考えています。



様々な課題の解決に向けて。 自然と人をつなぐプラットフォーム を提供していきます。

現代生活における人間性の低下、都市圏人口集中による地方衰退、
コロナウィルス感染拡大による新たな生活様式の要請など、現代
社会における諸問題を解決するソリューションとして今、野遊び、
そしてキャンプフィールドが求められています。新たな時代のガ
イドラインをクリアする”地域ならではの自然”を活かした事業が、
人々の人間性を回復し、豊かな人と社会の形成へと繋がります。

野遊びによる “人間性の回復”



現代社会の課題解決
・社会的ストレスからの解放
・コミュニケーション促進
・人間らしい生活リズム獲得
・都会の子供への自然教育

国としての課題 “地方創生”



地域の地方創生KPI
・自然資源を活用したい
・交流人口を増やしたい
・地域産業を活性化させたい
・地域の歴史文化の継承

コロナ禍の生活様式 “ニューノーマル”



新しい時代のサービス
・3密の回避
・屋外空間の積極的利用
・テレワークの推奨
・予約制利用でゆったりと

様々な課題を解決するソリューション “自然と人を繋ぐプラットフォーム”



現代社会において、様々な課題を解決が求められています。スノーピークは、新
たなガイドラインをクリアするソリューションとして、自然と人を繋ぐ野遊びの
力を活かし、豊かな人と社会の形成へと繋がるフィールドを提案します。



Headquartersキャンプフィールド (新潟県三条市)

2011年より、5万坪に広がる丘に本社併設型のキャンプ場を運営。ファンからは聖地と呼ばれる場所となっている。



箕面キャンプフィールド (大阪府箕面市)

2011年より指定管理を開始。自然館などの施設も複合的に管理。施設の経営状況も改善させ年々利活用が進んでいる。



十勝ポロシリキャンプフィールド (北海道帯広市)

2017年より指定管理を開始。それまで営業していなかった冬季も開業することで収益性を高め、冬キャンプなど新しい楽しみ方も発信している。



土佐清水キャンプフィールド (高知県土佐清水市)

2019年より指定管理を開始。元々無料だった施設を高規格キャンプ場化し、わざわざ訪れる場所に変えることで観光客の集客に成功している。



おち仁淀川キャンプフィールド (高知県越知町)

2018年よりキャンプ場を指定管理開始。計画の基本構想段階から監修として協力。開業後は町と連携しながら想定を上回る利用を生み出している。



奥日田キャンプフィールド (大分県日田市)

2015年より指定管理を開始。遊園地だった赤字施設をコンサルティングを通じて再生、現在は各地から利用者が集まる高稼働施設になっている。



Campfield



既存施設
活用

宿泊
利用者数
3.6倍

施設収入
※
35.8倍

見過ごされていた冬の魅力を
コンテンツ化して発信

十勝ポロシリ

基礎データ

名称：スノーピーク十勝ポロシリキャンプフィールド

所在地：〒080-2337 北海道帯広市拓成町第2基線2-7

面積：3.8ha

サイト数：オートサイト46（電源有15、電源無31）、フリーサイト16、
トレーラー用サイト2、住箱サイト5

施設：自然観察体験施設（キャンプ場管理棟兼）、サニタリー棟、
炊事場、芝生広場、園路、駐車場

効果

通年営業化

強固な顧客基盤で誘客を実施し、夏だけの営業から通年での営業を実現。見過ごされていた価値を顕在化させることで35.8倍※の施設収入、3.6倍の宿泊利用を生んだ、既存施設活用型の短期開発モデル。※自主事業を含む

コンテンツ開発

スノーピークが発起人となり設立したDMO（デスティネーション十勝）、周辺事業者と連携して、冬のサウナアクティビティや、マルシェ事業等を実施。冬の帯広本来の魅力をコンテンツ化して発信。



面積：3.8ha

サイト数：69

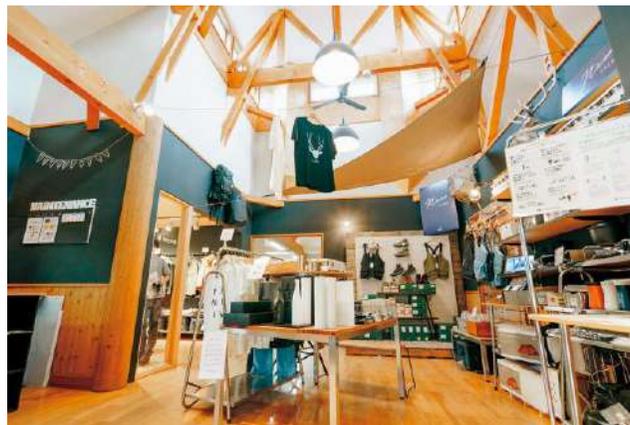
オートサイト46（電源有15、電源無31）、フリーサイト16、トレーラー用サイト2、住箱サイト5
施設：自然観察体験施設（キャンプ場管理棟兼）、サニタリー棟、炊事場、芝生広場、園路、駐車場



フリーサイト

区画なし

指定の場所に駐車いただき、1サイトにつき6名様、テント1張、タープ1張を基本として利用可能です。



ストア・管理棟

アウトドアギア

アパレル

宿泊受付

ストア・管理棟では宿泊受付、キャンプギア・アパレル、薪などの販売を行います。



炊事棟・洗い場

温水あり

フィールドにある炊事兼洗い場です。水、温水（一部施設除く）ともに利用可能です。



住箱サイト

電源つき

ベッドあり

初心者安心

世界的な建築家・隈研吾氏と共同開発したモバイルハウス「住箱-JYUBAKO-」の宿泊が可能です。

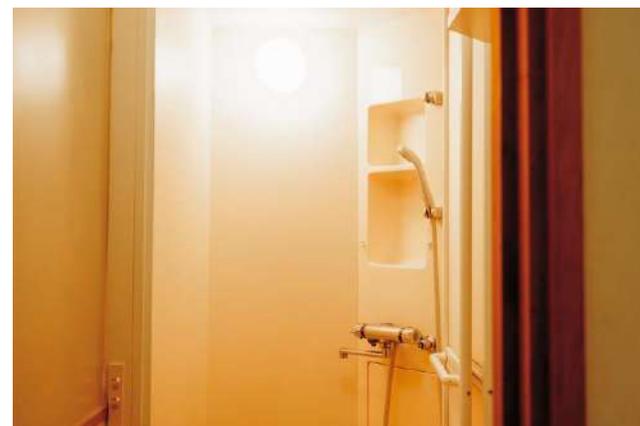


トイレ

バリアフリー

温水洗浄・暖房便座

施設内の全てのトイレに暖房便座と温水洗浄を完備。ストア内にはバリアフリートイレも用意しています。



シャワー

24時間利用

24時間ご利用いただけるシャワーを完備（無料）しています。



トレーラーハウス導入（住箱）



冬季営業開始



アウトドアギア・アパレル等物販開始

- ・施設面 | 住箱の導入
- ・運営面 | 冬季を含む通年営業開始
- ・運営面 | 物販の導入（キャンプギア、アパレルの販売）



- ・近隣店舗による案内
- ・定期イベント開催
- ・地域コンテンツ事業者との連携
- ・地域DMOとの連携（グランピング、サウナイvent等）
- ・企業向け研修やオフサイトMTGの実施（ワーケーション）

定期イベント開催（定期的な集客創出、地域ならではのコンテンツ実施）



企業ワーケーション（春や夏だけでなく、冬の開催も可能 冬季は住箱での宿泊）

人生に、
野遊びを。

* snow peak
outdoor lifestyle creator since 1958